

合らせをして、この感じだって、う訳ですよ。いつも  
感覚ってズゴクいいですね。こう書いてうしやるって  
いうのはもちろん、自分もどうだからですよ。その  
ことは自分に返ってくる訳です。私たちはどうか、自  
分がイイと思ひながら誰かを傷つけているかもしれ  
ない。自分では良くなかつたなあと思つたけど結果  
的に良かつたかもしれない。分かりませんね。良かれ  
と思つてやってくることが大変になることが……。檢  
査技師が資格持つてなかつたら、会社は滅びます  
よね。鉄板の強度が基準に満たなかつたとかね。会  
社にとっては良いことですよ。余計な経費を使わず  
に効率良く儲けなくちゃいけないからというふうで  
しようかね？ よく分かりませうけども。でも、そつ、う  
過ちが重なつて信頼を失う。業界道……ちょっとど  
まかして……ちよとぐら、イイか、みだりなことが  
ある訳ですよ。昔の人はそれを“魔が差す”と言い  
ました。やっぱり守つていかなければならぬ……といつ氣  
を持ちがあるから、本当のこと隠して、本当でないこと  
を本当にみせていく訳ですよ。東芝の粉飾決算も  
どうでしょう。同じことですよ皆。学校も病院も都  
合が悪かっただら、医療ミスがあつても、イジメがあつ  
ても、みんなそれを隠そう隠そうと……する訳です  
よね。どこへいってもね。都合の悪いことは隠す訳や。  
政治家は最たるものだね。でも私たちと関係ない  
かと言つたら、私たちと地続きです。同じです。私た  
ちもそういう立場になれば同じようなことをす  
るんですよ。そういう存在だねえ。昨日、私は北海

道に行つきました。知り合いのお寺さんの報恩講ですね。三日間お話をしてくれと言られて、三日間です。報恩講！朝昼・晩。40分のお話を一日二座。ずっと話していくと、もう話すことは何もありません（笑）といふこと…。でも昔は一週間でしたから。（本山が七日間ですかう、それになつて。私の実家は九州の熊本ですが長崎に行くと、まだ一週間お勤めしていらる寺がありますから。一週間つていつたら大変ですよ。まだ一週間の経験はないなあ。私の先輩がその一週間の寺に行つたって言うんですよ。もう自分が準備してきたことは、全部無くなれる訳や！もう話すことがなくなつてね、最後のお話の時間になつてね、「もう何も出来ん」と言つて帰つて来たって言つてます。（大笑）正直に。そしたら本堂で聞いていたおばあちゃんがね、「そこからが聞きたい」と言つたんで、準備した話なくて大したことない訳ですよ。本当にあなたの中から出てくるものを聞きたいってことやねいですか。それで坊さんでいうのは育てられる人ですよ。ご門徒から育てられる訳や。私も皆さんから育てられ、実家のお寺でも小さな頃からご門徒さんに触れて育てられてきたなあと田じいます。そうこう感覚的って大事なことはないでしようかね。まあ、それで「過つ…善導大師の」とばんこつ字がある。「過」あやまり、あやまつ。なんて書いてあるかといふと、我々は過つてしまつんだと。何を過るかといふと、衆生を過ると書いてあります。衆生って何か？広い意味で言えば、生きとし生けるいのち、生きとし生ける存在。草花も生きている。

お魚も生きている。鳥も豚も牛もみんな生きている。人間も生きている。だから云ひんですね、衆生という概念は。「蠶儀蠕動の類」ってね、经典の中にあります。朝儀っていうのは羽がある生き物。蠕動っていうのは、体をくねくねさせて生きる生き物。土の中でも体をくねくねさせて生きている生き物は何でしょうか? ハハハ、ハハハ、ハハハのいのちも昆虫のいのちも、私たち人間のいのちも皆、いのちにおいては等しい。という感覺。私たちが肉を食べる。野菜を食べる。魚を食べる。何を食べてるかっていうと、こののちを食べてる訳だね。こののちを食べべるってどういうことかと言つと、そこには「殺」と云つて、「くずす」ではなくてはならぬのです。この上に成り立つて生ですね。人間はその事實に対してどんな感覺を持って来ました? 他の動物は持ち合ひさせてません、どういつ感覺は、どくなく知能の高いサルやチバニャイーでも、ゴリラでもそういつ感覺は持ち合ひさせてない。人間だけがある感覺です。何でしよう? それは……「罪」です。殺しているってことですよね。でも、生きていなくては、殺は避けられない。だからどうしてきました? その感覺が形にならぬ。この感覺は人間としての象徴だから。シンボルだから。だから、それをどうしたかって言ふと、生活の中でそれを忘れないようにして、形にしてしまいます。それ何を云つてます? 「生きるため」

です。これは人間にしかできないですね。殺しているんだってことですか? 私たちはそのいのちの生きえの中で生きているから「ありがとづ」がある。だけど殺して当たり前にないから、申し訳なかった」「ごめんなさい」という言葉がある。だから私は、この衆生のいのちを生きているんだけども、衆生のいのちを犠牲にしなきゃ生きられない。そういう感覺です。そこには何があるか? うと、いのちは等しいんだという感覺も、と言つばあ、アメリカの人たちのいのちもね、存在もね、中国や北朝鮮に生きている人たちの存在もね、アフリカの人たちも日本の人たちも、人として生きているいのちとうことににおいては、全く同じ重さと同じ尊さがあるということですね。ところが難しくですね、私は、人種……肌の色。言葉。生活习惯……なかなか、受け入れられないですよ。人間はね、悲しきかな、受け入れられないですよ。異形に触れるとな、自分たちと違うなと思つたら受け入れられないですよ。人間はね、悲しきかな、受け入れられないですよ。異なるものを排除するんです。良いものは受け入れる……。白人社会と云つのは白人が一番ついう感覺の人気が沢山つっちゃうから。そうすると、アメリカの今の情況はいろんな摩擦が起つてゐる訳ですよ。私たち……黄色い人たちは、名誉白人……から、勝手に言つなんや……って感じですけど……。白くても黒くても黒くても、父のいのちと母のいのちを遺してきました。それが個有のね、歴史があつて、記憶を持つてゐるが私たちじゃなくてですか。かけがえがないですよ。みんなが次々が苦ですよね。みんな唯一なる存在ですよ。それをね衆生……と言葉で表してゐる訳です。でもう少し狭い意味で言つて、人間存在を衆生と言います。その人間存在



の衆生である私たちは、そのことを失ってしまうのだと。正信偈の中に一ヶ所だけ、“衆生”という言葉が出てきます。“邪見惰慢悪衆生”赤本でいふと、13ページ。一緒に読みましょう。「じやげんきようまんあくしゃじよ」我々は人間衆生だけれども、その衆生が衆生を過る。人間が人間を過る。人間がいのちの本来を過る。どう過っているかと云つて、邪見惰慢：慢慢とは比較。比較するんですね。利用できる、利用できぬ、活躍できる活躍できぬ、比べる記ですよ。で、活躍できる人はマル、活躍できない人はバツ。だから總活躍って言う訳。その根っこには何があるかと云つて、経済ですよね。経済に役立つ人間はマル。経済に役立たない人間はバツ。活躍できる活躍できぬ。活躍・人作りをしましょう：人作り革命なんて言っている人がいる。政治の力で人を作つたら恐しいよね：〇×です。上か下か。優れていゐか、優れてなつか、健康か病氣か、若いか老いてるか：ねえ、若い：年はとりたくないけど重ねていきますからねえ。衰えていく訳ですよ。時は若ひつた：（笑）十数年前。こちらの金職も変わらぬ：ようつだけど、ちうと髪の毛、黒いもんねえ。とは言え人間は變ゆる訳だから。時々：80代じゃなか

なって思つ人がね、お孫さんのじやがいの？って「うへうへ若い、年に相応せない服を着てゐる人がいます。なんとなくバランスが悪いんですよ。やっぱり人間と云つのは、年相応が良いです。等身大の美しいのがありますよ。無理するとね等身大でなくなるからね。何でもそうですよ。でもなかなかそれができないんですよ。比較してね。いつも良いか悪いかで生きる訳だから。そして、それが自分よりもちょっと上がりば、まあ嬉しい訳ですよ。それを「惰慢」と言います。見おうす。優越感。うまくいかない自分が駄目だと田たう、下の方だから「卑下慢」。偉ぶつてるのは「増上慢」って言つてくださいね。自分が駄目だって言うのを卑下慢。慢には変わりないです。惰慢、増上慢。権力を持つとねえ、あいう顔になるね。皆同じでしょ？ プーチンさんも、習近平さんも。トランプさんも日本の人々とかさんも（笑）皆、同じ顔。人相一緒。そつと顔になるのよねえ。権力持つてさ、勘違にする。自分はそういう立場だけど一人の人間として生きていることの感覚が、どうかで失われてしまう。だから正しく隣にいるんだけど、その隣の人の存在のあるままの姿が見えていいない。子供の姿も見えてないし、夫の姿も見えてない。妻の姿も見えてないかもしれない。親の姿も見えてないし、親が学校の先生も生徒に押しつける。難しいですねえ。本当はお互にお互に支えられているんだけど、ただだけを中にして相手に押しつける。國も国民に押しつける。だけを中にして相手に押しつける。國も國民に押しつける。生徒を教えるけれども。親御さんもどうでしょう。教えられる訳ですよ。私が行つてゐる幼稚園があるんですよ。あ、私

が通じる訳じゃないですよ。(大笑)幼稚園の先生たちには、月一回、いのちの話ををしてほしいと言われて行つてゐるんです。お話をしたら先生たちがね、20歳過ぎから30歳代の若い先生たちですよ。その先生たちが必ず毎回レポートを書いてくれるんです。「害虫」について話をしてなんですね。虫に害虫というのがいるんですねか? って話だね。どの幼稚園には菜園があつたりね、動物を飼つたりして、その動植物に触れながら、何かを感じて欲しいという願いがあるんですね。それでレポートには(ある先生の)「害虫についてのお話を聞き、子供たちと育てたはつか大根のことを使ひ出しました。以前育ててたはつか大根に虫が付き葉っぱを食べてしましました。そこで子供たちとどうするか話し合ふと虫を育てたいと云ふことになりました。」イイねえ。我々は害虫をどうする? すぐ殺すよな。子供たちの感覚、それを先生たちが、その感覚から学んでいくと云う姿勢がある。自分の感覚を押しつける訳じゃない。自分のこれまでの教育の中味を押しつける訳じゃない。そこには、子供たちからこの感覚というものを教えられているんだね。「その虫は蟻になる青虫でした。同時期にみかんの木の青虫(これはアゲハ蝶になつた)がアゲハ蝶だらうが関係ないのです。」あ、この虫はアゲハ蝶になるから育てよう、これは蟻だね。う殺しまおうとそんなことは考えないと云うんだね。蟻にはろうがアゲハ蝶になろうが同じいのちとしてみているのではないか、どうかねえ。虫を育ててのうちの大切さを感じた出来ごとでした。それと一緒に植物を育てるということはとても難しく

「ひとだと田じいました。私のクラスでは、公園の里山でさつま芋を育てています。これから草取りの時期になります。どのように伝えていくか、私自身、沢山考えていただきたいと田じいます。さつま芋は抜かないけど、雑草は抜く。どうして? いのちでしょ? みんな。ここに何があるのかどうと、問いかがる訳ですよ。私たちに変な答えを持つていいな。子供たちのそういう感覚の中に問い合わせいただきながらいる訳ですよ。やっぱり抜いていかなくちゃいけないから、どうして抜くのかを伝えていかなくちゃならないでしょ。どう伝えていくかといふことですねえ。聞いですよ。幸せだなあと思うな。小さい頃どんな環境で育つかは大事ですね。どうう大人になつて、どうううことを見つけてどううことを経験して、どううことで感じてね、その感じたものを元にしてどう生きいくかね。私たちは子供たちにどうう環境を与えているんでしょうかね? 今日は法事だったんですね。10時から。中学2年の子と小学6年生の子がいた。お父さんは一生懸命スマホをいじつた。そして、中学2年の子も、小学6年の子も、親戚の人たちがいるのに、3人ともスマホをいじつてゐる。自分の世界なんですね。まわりがいるんだけど: まわりの人たちのことは日にない訳ですよね。お父さんがそうなら子供さんもどうなりますよね。親の姿を見て子供はそれを習いますから。それは大人の責任といふかね: 先に生まれたものの責任は大きいんじゃないですか。何を大事にして、何を人間としての感覚を持つかね。人間の教育は3歳まで。つまり幼稚園・保育園・根っこまでの教育。義務教育は読みたり、書いたり、計算したり、幹の教育。あと枝とか葉っぱは、専門教育。大事なのは何かと言うと: 根っこ



教育。根っこは知識・教養じゃない。人間としての感覚です。リリーニングメカニズムって、うううとかとこうと…海亀は海岸線に一斉に卵を産みつける。ある時期がくれば一斉に孵化する。そして生まれた子亀は一斉にどこへ行く？…そう、海に行く。本能ね。海亀の本能つまり海亀のいのちの感覚ですね。だから海亀ほんですよ。人間はどうですかね？人間は？人間としてのリリーニングメカニズムは？人間としての感覚・本能は何？生まれましたあー。起きましたあー。育ちますか？育ちませんね。ご飯をあげます。でも抱きません。喋りかけません。どうせりますか？育たないよね。人間にどうせ？…ですよ。私が私にならなーですよ。じゃあ人間のはじまりはどこにあるか？生まれました。最初は何があるの？お母さんが赤ちゃんを抱くってことです。それが人間のはじまりだね。抱いたらその子どもの中にどうこう感覚が生まれる？体温だね。赤ちゃんは抱かれると、お母さんの鼓動、そして身体の温もりを感じる。そして赤ちゃんの名前を呼ぶでしょ。名前がはじまりですから。私たちは自分の名前と生きて来ましたから。私の存在は、私の名前と一緒にです。だから私の名前は私の人生、私のものなんですよ。だ



そのお宅は位牌を作つて、そこには施主の人の名前が書いてある訳よ。位牌に「〇〇の父」って書いてある訳。奚分かる？で、「の父」が小さいの！(大笑)だから、位牌を預かった時、あれ？こんな名前だったかなあって思つて、位牌を持って来た人の名前が亡くなつた人の名前だと思つて、その人の名前を呼んだんですよ。そしたら途中で手が上がって、名前が違つてますって。(笑)おこられたらんです。それ程、名前っていうのは重いものなんですね。だから名前を呼ぶでしょ？どんな顔して名前呼ぶの？おこらん顔して呼びますか？昨日も隣のお寺さんで赤ちゃんが産まれてねえ。顔を見に行つて来ました。イイですね、お母さんが抱いてねえ。私も抱かせてもらつたんだけど。名前を呼んだら「コッとしてね。本能です。我々はねえ、温もりがなきや生きて行けねんですよ。だけど私たちは心は、自分の都合のイイ温もりと、都合のイイ明るみを求めてしまうから、私たちが結果的にどんな世界を作るかというと、冷たくて暗いものを生み出してしまふんですよ。それが今の時代の姿でもあり、私

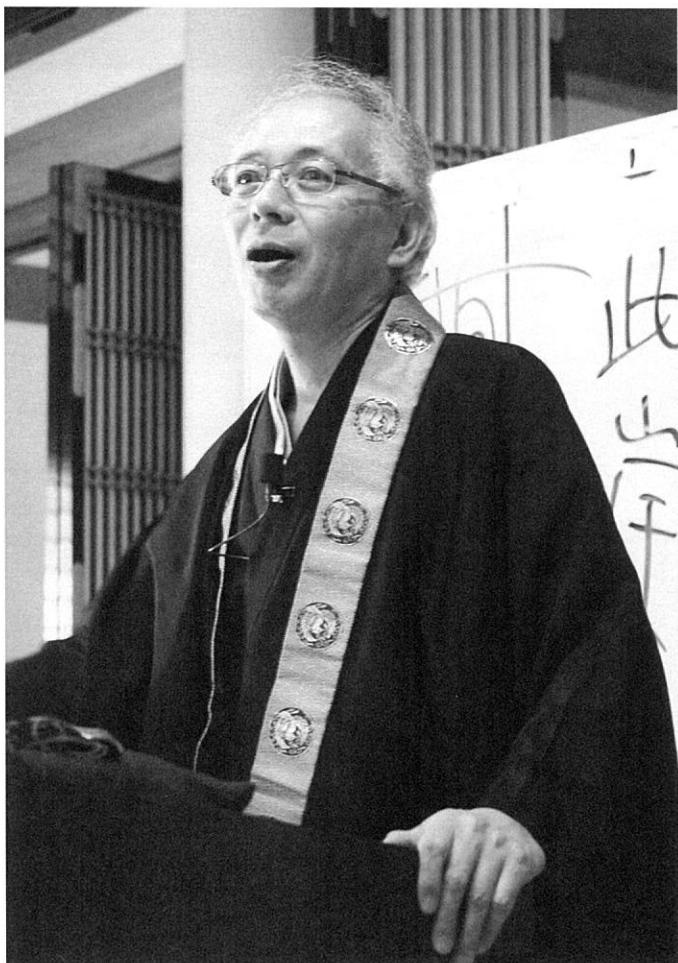
かう名前は大事なんですよ。名前を間違えたら良くないでしょ？私一度ねえ、法事で亡くなつた方の名前を間違えしまってねえ。おこられました。当り前ですよ。だけど間違う理由もあるんです。真宗は位牌は使わせないけど、

たちの生活の中へそういうこともありうる  
ことなんですね。人間の本来は、温もりと  
明るみです。人間の心はその感覚を失な  
見えなくなる場合があるんです。温もりは  
“いのち”です。明るみは“光”ですね。みんな  
はかりしなりいのちを生きているから、無量  
寿。みんなはかりしなりい光、明かりを求め  
ているから無量光と言います。無量寿、  
無量光と言うんですね。その本来を失なわ  
ないために、言葉といつ形になっている訳です。  
「すねう一ペーパー目の一  
帰命無量寿如來」：ありますか？ 無  
量寿とあるでしょ？ イコール阿弥陀さん  
ですよ。阿弥陀さんといつのは、無量寿な  
んです。帰命は南無ですか。無量寿  
に帰れと言っているんです。すべてのいのちは  
等しいんだといつ世界に目を開けと言って  
いるんです。同時にそのことば  
背いて生きているのが私  
なんだよと。罪深い生き  
方をしてるよと。そういう  
ことに田を開いて欲しいんだ  
と。そこには、自分免許で生き



ては、いのちの記憶です。同時に、いのちを傷つけて  
来たといつ歴史、そして記憶。その二つの記憶を私  
たちが喚起していかなくてはならない。取り戻していく  
なきやならない。どうといつところに私たちの自利した  
生き方が生まれる。自重した生き方が生まれる。謙  
虚な生き方がそこに生まれる……。ということで、自分  
免許は危ない。記憶といつことをキーワードにして  
お話しいたしました。（終）

海法龍 ご住職  
に  
感謝と御礼を申し上げます。





《 2018年のお莊嚴 》



♦ 仏法聴聞の場にこの身を据えることができるのはあること難しの おかげさんであります。

親鸞聖人が

伝えて

くださった



有縁の方々と

お念佛の

こころを



ご一緒に

いただいて

行きたい





2年ぶりの別冊である。別冊はテープ起しが終了したう、自分の感覚でいきなり清書に入る。

印刷・製本の関係で4で割り切れる数のページで書きあげないといけないのだが、2/3くらいまでは何も考えずに突っ走る：（笑）なのでページによっては大き目の文字で読み易いものあれば、後半、ものすごく小さい文字でパツパツのページもある。今回も16ページで終わってしまったので、19ページまでの3枚を写真メインで終えた…。ノリノリの時もあれば、眼くて目が開かない状態で書いている時もあり、字の大きさは△△で、曲がったり、斜めになったりと、何年書いてても酷いものである…が、その中味は仏法がぎっしり詰まっているので、是非最後までじっくりと味わっていただきたい。

釋義祐 拝

今回の別冊も ご門徒の藤井清三さま  
のご厚意で お届けする事が出来ました。  
この場を借りて 御礼申し上げます。

合掌

発行日 2019.10.19

電話 03-3368-6947

発行 真宗大谷派 高徳寺

FAX 03-3362-8019

編集 住職 新井義雄(法名釋義祐)

〒164-0002 東京都中野区上高田 1-2-9